

2025 年 10 月入学（第 2 次募集）
2026 年 4 月入学

大 学 院

生物システム応用科学府

（ B A S E ）

生物機能システム科学専攻

博士後期課程（博士）

学生募集要項

東 京 農 工 大 学

重 要

指導予定教員との連絡について（必須）

出願にあたっては、志望する指導予定教員へ連絡をとり、研究内容及び学力試験日程等の確認を必ず行ってください。

また、合格した場合は、指導予定教員へ連絡し、今後の研究計画等の打ち合わせを必ず行ってください。

本要項に記載した情報は 2025 年 4 月時点の内容です。

本要項の公開後であっても、選抜方法や日程等に変更が生じる可能性があります。

変更のお知らせは本学ホームページの「入試情報 > 大学院：入試情報 >

重要なお知らせ」に掲載しますので、随時ご確認いただくようお願いします。

【本学ホームページ「重要なお知らせ」URL 及び QR コード】

https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/info/



生物システム応用科学府のアドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、生物システム応用科学府は、以下のような人材を求める。

生物システム応用科学分野の学際性、融合性を考慮し、分野や履歴にとらわれず、高度の専門的・学際的知識の習得と知の開拓に強い意志を持ち、最新の科学技術の展開に関心を抱き、実践的に行動する意欲を持った学生を、広く国内外から受け入れる。

生物機能システム科学専攻のアドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

生物機能システム科学専攻は、複雑な生物機能に学ぶことで発想される物質生産及び変換、情報処理及び伝達、環境計測、生体計測、物質循環等に関わる様々なシステムを理解するための学問、学術分野を基盤として、高度な科学的素養と課題解決力を具え、先導的な研究実施能力を有する博士人材の養成を目的とする。 よって、次のような人材を求める。

- ・ 生物に学び、その機能を生かした物質、機械、情報、医療・健康、医薬、物質循環等、様々な農工融合の新たなシステムに関心があり、これらの知識や技術の習得を通して、幅広い分野で活躍する意欲のある者。
- ・ 特定の分野の知識・技能だけでなく、関連する分野の素養を基礎として、学際的な分野への対応能力を含めた高度な専門的知識や実験・計測技術の習得に関心を持ち、これらの活用により持続可能で安全・安心な社会へ貢献する意欲のある者。
- ・ 産業界や国際的ニーズの潮流を理解し、実践的な課題の発見や課題解決に挑戦する意欲をもつ者。

2025 年 10 月入学（第 2 次募集） 2026 年 4 月入学 東京農工大学大学院 生物システム応用科学府（BASE） 生物機能システム科学専攻博士後期課程（博士） 学生募集要項

本学府に関する概要、所属教員の研究内容等については、東京農工大学大学院生物システム応用科学府ホームページを参照のこと。

1. 募集専攻・募集人員等

専攻名	募集人員	
	2025 年 10 月入学	2026 年 4 月入学
生物機能システム科学専攻	第 2 次募集：若干名	第 1 次募集：12 名 第 2 次募集：若干名 第 3 次募集：若干名

※募集人員には、社会人特別選抜を含む。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当するものとする。

一般選抜の出願資格

- (1) 修士の学位を有する者又は専門職学位を有する者及び入学する月（10 月または 4 月）前までに当該学位を取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学する月（10 月または 4 月）前までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学する月（10 月または 4 月）前までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下、「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び入学する月（10 月または 4 月）前までに当該学位を取得見込みの者
- (6) 外国の学校、上記（4）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和 49 年文部省令第 28 号）第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
 - ① 大学を卒業し、大学・研究所等において、2 年以上研究に従事した者で大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - ② 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入

学する月の1日現在24歳に達した者

社会人特別選抜の出願資格

- (9) 各種研究機関、教育機関、企業等に勤務中の者又は最終学校卒業後職にあった者で、上記(1)～(8)のいずれかに該当する者

注)「出願資格(7)・(8)」により出願する者は、事前審査を行う。([出願資格(7)・(8)の認定について]
(p.8)参照のこと。)

3. 選抜日程等

	2025年10月入学	2026年4月入学		
	第2次募集	第1次募集	第2次募集	第3次募集
※出願資格審査申請	2025年6月30日(月) ～7月1日(火)	2025年6月30日(月) ～7月1日(火)	2025年10月1日(水) ～10月2日(木)	2026年2月5日(木) ～2月6日(金)
※出願資格審査 結果通知	2025年7月11日(金)	2025年7月11日(金)	2025年10月17日(金)	2026年2月20日(金)
出願期間	2025年7月16日(水) ～7月17日(木)	2025年7月16日(水) ～7月17日(木)	2025年10月23日(木) ～10月24日(金)	2026年2月26日(木) ～2月27日(金)
入学試験	2025年8月26日(火)	2025年8月26日(火)	2025年11月17日(月) ～11月18日(火)	2026年3月9日(月)
合格発表	2025年9月5日(金) 10:00	2025年9月5日(金) 10:00	2025年12月8日(月) 10:00	2025年3月17日(火) 10:00
入学手続き期日	2025年9月12日(金)	2026年3月16日(月)	2026年3月16日(月)	2026年3月25日(水)

※出願資格(7)(8)の者のみ対象

4. 出 願 期 間

「3. 選抜日程等」参照(窓口受付時間:9時30分～11時30分、13時30分～16時 ※土日・祝日は除く)
郵送にて出願する場合期日必着とする。

5. 出 願 手 続

一般選抜により受験を希望する者は、「7. 一般選抜(p.3)」の項を参照し、また社会人特別選抜により受験を希望する者は、「8. 社会人特別選抜(p.4)」の項を参照し、所定の出願書類等を出願期間中に事務室へ郵送すること。封筒の表に「BASE 博士後期課程出願書類在中」と朱書きし、書留速達で送付すること。

6. 出願書類提出先及び問い合わせ先

東京農工大学小金井地区学生支援室入学試験係
〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16
東京農工大学小金井キャンパス内管理棟(1階)
TEL 042(388)7014(直通)

7. 一 般 選 抜

一般選抜は、学力検査と書類選考を総合して選抜を行う。

(1) 出願書類等

出 願 書 類		注 意
A	入 学 志 願 票 (所 定 用 紙)	「志望する主指導予定教員」の欄は必ず記入すること。 なお、本要項 (p.7) で※1、※2 の教員の指導を希望する場合は事前に各教員と相談し、志望する主指導予定教員欄及び副指導予定教員欄を記入すること。本要項に記載が無い指導教員名を志望する主指導予定教員欄および副指導予定教員欄に記入することはできない。
B	写 真 票 ・ 受 験 票 (所 定 用 紙)	写真票・受験票には、脱帽上半身で志願者本人と判る写真 (タテ4 cm×ヨコ3 cm) を貼付すること。
C	修了(見込)証明書	出身大学院が作成した博士前期課程又は修士課程修了 (見込) 証明書を提出すること。ただし、出願資格 (7) ・ (8) に該当する者、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
D	成 績 証 明 書	出身大学院で作成したものを提出すること。ただし、出願資格 (7) ・ (8) に該当する者、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
E	修 士 論 文 の 概 要 (所 定 用 紙)	博士前期課程又は修士課程修了者及び大学院に在学中の者は、修士論文の内容を日本語で2,000字 (英語の場合は500words) 以内に要約した概要を提出すること。なお、修士論文に関連した別刷又はその写しがある場合は添付すること。ただし、出願資格 (7) ・ (8) に該当する者、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
F	研 究 計 画 書 (所 定 用 紙)	博士後期課程における研究計画を日本語で2,000字 (英語の場合は500words) 以内にまとめること。
G	志 望 理 由 書 (所 定 用 紙)	志望理由等を日本語で2,000字 (英語の場合は500words) 以内にまとめること。本学府研究生 (指導教員が本学府の教員である場合に限り)、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
H	住 民 票 の 写 し 等	1) 外国人は、住民票の写し (国籍等、在留資格、在留期間及び在留期間の満了の日が記載されたものに限り。) 又はパスポートの写しを提出すること。 2) 国費留学生は、国費外国人留学生証明書を提出すること。ただし、本学に在籍中の国費留学生は提出不要。
I	入 学 検 定 料	30,000 円を以下の指定口座へ振り込み、支払証明書またはレシートを「入学検定料納付確認票」に貼りつけて提出すること。 【振込先】 三菱 UFJ 銀行 本店 普通 7 8 5 1 7 2 2 口座名義 トウキョウノウコウダイガク ※振り込みの際には、必ず振込人名義を「BASED (自分の名前)」とすること。 例: BASED ノウコウタロウ ※海外からの送金は、事前に入学試験係に相談すること。 <u>※本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後の国費外国人留学生の奨学金支給延長が決定している外国人留学生は納入不要。</u>
J	返 信 用 封 筒 (郵 送 出 願 者 の み)	定型封筒 (長形3号)。郵送で出願する場合は、受験票返送用として郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手460円 (簡易書留) を貼り付けたものを同封すること。 【8月1日までに、受験票が届かない場合は、p.2「6.出願書類提出先及び問い合わせ先」記載の入学試験係に連絡すること。】
K	宛 名 票 (所定用紙)	必要事項を記入すること。なお、提出後住所等の変更があった場合は、速やかに連絡すること。

(2) 学力検査

提出された修士論文の概要と研究計画などを参考にして関連する専門分野及び語学の試験を行う。

なお、論文等を外国語で発表している場合には、書類審査の上、語学の試験を行わないことがある。

(3) 学力検査日及び場所:

検査日:「3. 選抜日程等」参照

場 所:東京農工大学小金井キャンパス内またはオンラインで実施

なお、試験会場等の詳細については、別途出願者に通知する。

8. 社会人特別選抜

(1) 趣旨

近年の生物システム応用科学の目覚ましい進展に伴い、社会の各方面から本学府で対象とする専門分野のエキスパートの養成が強く求められている。このような社会の要請及び専門技術者の再教育の必要性に応えるため、本学府博士後期課程では、社会人を積極的に受け入れ、大学と社会との一層の交流を目指す。

(2) 選抜方法

一般選抜とは別に学力検査と書類選考を総合して選抜を行う。なお、一般選抜との併願は認めない。

(3) 出願書類等

出 願 書 類		注 意
A	入 学 志 願 票 (所 定 用 紙)	「志望する主指導予定教員」の欄は必ず記入すること。 なお、本要項 (p.7) で※1、※2の教員の指導を希望する場合は事前に各教員と相談し、志望する主指導予定教員欄及び副指導予定教員欄を記入すること。本要項に記載が無い指導教員名を志望する主指導予定教員欄および副指導予定教員欄に記入することはできない。
B	写 真 票 ・ 受 験 票 (所 定 用 紙)	写真票・受験票には、脱帽上半身で志願者本人と判る写真 (タテ4 cm×ヨコ3 cm) を貼付すること。
C	修 了 証 明 書	出身大学院が作成した博士前期課程又は修士課程修了 (見込) 証明書を提出すること。ただし、出願資格 (7) ・ (8) に該当する者、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
D	成 績 証 明 書	出身大学院で作成したものを提出すること。ただし、出願資格 (7) ・ (8) に該当する者、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
E	研 究 業 績 一 覧 (所定用紙) 及び 研究業績等の別刷	研究業績等 (学術論文、研究発表・報告、特許等) について記入し提出すること。 なお、その研究業績等の別刷又は写し等がある場合にはそれらも併せて提出すること。
F	在職(在籍)証明書 (様式随意)	主な職歴について、所属長等が作成し職務内容及び在籍期間が明記された在職 (在籍) 証明書を提出すること。
G	研 究 計 画 書 (所 定 用 紙)	博士後期課程における研究計画を 2,000 字 (英語の場合は 500words) 以内にまとめること。
H	志 望 理 由 書 (所 定 用 紙)	志望理由等を日本語で 2,000 字 (英語の場合は 500words) 以内にまとめること。本学府研究生 (指導教員が本学府の教員である場合に限り)、本学府博士前期課程に在学中の者は、提出不要。
I	住 民 票 の 写 し 等	1) 外国人は、住民票の写し (国籍等、在留資格、在留期間及び在留期間の満了の日が記載されたものに限る。) 又はパスポートの写しを提出すること。 2) 国費留学生は、国費外国人留学生証明書を提出すること。ただし、本学に在籍中の国費留学生は提出不要。
J	入 学 検 定 料	30,000 円を以下の指定口座へ振り込み、支払証明書またはレシートを「入学検定料納付確認票」に貼りつけて提出すること。 【振込先】 三菱 UFJ 銀行 本店 普通 7 8 5 1 7 2 2 口座名義 トウキョウノウコウダイガク ※振り込みの際には、必ず振込人名義を「BASED (自分の名前)」とすること。 例: BASED ノウコウタロウ
K	返 信 用 封 筒 (郵送出願者のみ)	定型封筒 (長形3号)。郵送で出願する場合は、受験票返送用として郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手 460 円 (簡易書留) を貼り付けたものを同封すること。 【8月1日までに、受験票が届かない場合は、p.2「6.出願書類提出先及び問い合わせ先」記載の入学試験係に連絡すること。】
L	宛名票(所定用紙)	必要事項を記入すること。なお、提出後住所等の変更があった場合は、速やかに連絡すること。

(4) 学力検査

提出された研究業績、研究計画などを中心に、関連する専門分野についての口述試問を行う。

(5) 学力検査日及び場所

検査日：「3. 選抜日程等」参照

場 所：東京農工大学小金井キャンパス内またはオンラインで実施

なお、試験会場等の詳細については、別途出願者に通知する。

9. 合格者発表

「3. 選抜日程等」に記載されている日時から3日間、本学ホームページ（<https://www.tuat.ac.jp>）に掲載する。

合格者には合格通知書等を郵送する。

10. 入学手続

(1) 入学手続期日

「3. 選抜日程等」参照

詳細は別途通知する。

(2) 入学に要する費用等

① 入学料……282,000 円

② 授業料……年額 642,960 円（前期分 321,480 円、後期分 321,480 円）

ただし、在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される場合がある。

本学（大学院連合農学研究科の構成大学を含む。）の学府・研究科修了見込みで出願する者は、本学学則第 39 条の 2 に定める「進学する者」として扱いますので、入学検定料および入学料が不要となります。

*東京農工大学学則 第 39 条の 2

本学（大学院連合農学研究科の構成大学を含む。）大学院の博士前期課程、修士課程または専門職学位課程を修了し、引き続き博士後期課程または博士課程に進学する者の入学料及び検定料は、徴収しない。

入学時には、本学指定の学生教育研究災害傷害保険料等の諸経費が必要となる。

(3) 必要書類等

在職のまま入学を希望する者は所属長等の入学承諾書（所定用紙）を提出しなければならない。

（支払った入学費用等は返却できませんので、ご留意ください。）

また、他の大学院に在学中の者は退学証明書を提出しなければならない。

なお、提出できない場合は入学許可を取り消すことがある。

(4) その他

障害（学校教育法施行令第 22 条の 3 に定める障害の程度）等のある者で受験上および修学上特別な措置を必要とする者は、志望する主指導予定教員および小金井地区事務部学生支援室入学試験係へ出願前のできるだけ早い時期に相談すること。申請内容によっては、試験日までに対応できず、配慮できないこともあるので、なるべく早く申し出ること。

11. 注 意 事 項

(1) 出願に当たっては、志望する指導予定教員に連絡し、確認を得ておくこと。

(2) 学力検査には必ず、受験票を携帯すること。

(3) 出願手続後における提出書類の内容変更は、認めない。

(4) 本要項及び大学からの指示する諸事項を守らない場合は、受験できない場合がある。

(5) 入学試験に関する照会は、p.2 に記載の出願書類提出先及び問い合わせ先とする。

(6) これ以外の試験に関する注意事項は、出願時に配布する。

(7) 納入した検定料は、いかなる理由があっても払い戻さない。

(8) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに志願者に通知する。

(9) 本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人東京農工大学安全保障輸出管理規程」を定

め、学生の受入れに際し厳格な審査を行っている。規制事項に該当する場合は、本学から経済産業省（経産省）への許可申請が必要となり、すぐに教育が受けられない場合や研究ができない場合がある。また、経産省が国際平和・安全の維持の観点から申請を不許可とした場合、結果的に本学での教育が受けられない場合や研究ができない場合があるので、注意すること。

- (10) 試験前日または当日に災害等が発生し、試験の実施に大きな問題が生じた場合は、以下のウェブサイトに対応を掲載する。

東京農工大学トップページ>ニュース <https://www.tuat.ac.jp/NEWS>

- (11) 個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」および「国立大学法人東京農工大学個人情報の保護に関する規程」に基づき、次のとおり取り扱う。
1. 出願書類に記載された個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用する。
 2. 入学者選抜に用いた試験成績等は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用する。
 3. 入学者の個人情報については、①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用する。
 4. 上記1.～3.の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがある。受託業者には、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部または一部を提供する。

12. 教育研究分野教員一覧

※1、※2の教員については、一般選抜の場合は p.3「7.一般選抜 A 入学志願票」欄を、
社会人特別選抜の場合は p.4「8.社会人特別選抜 A 入学志願票」欄を参照のこと。

教員の連絡先は生物システム応用科学府 HP を参照のこと。<https://www.tuat.ac.jp/base/staff/>

教育研究分野名	教 員 名
物質機能設計	教授 荻野賢司
物質エネルギー設計	教授 富永洋一
物質機能革新	教授 村上 尚
環境光システム	教授 岩見 健太郎
物質機能応用	教授 銭 衛 華
微粒子・物質移動プロセス	教授 Wuled Lenggoro
非線形・非平衡系	准教授 花崎 逸雄
環境モニタリングシステム	准教授 赤井 伸行 ^{※1}
機能材料科学	准教授 中田 一 弥
エネルギーシステム解析	教授 秋澤 淳 ※ ² 2027.3 退職予定
電磁波工学	教授 有馬卓司
メディア情報学	教授 藤波 香織
環境機械システム	教授 石田 寛
ロボティクス	教授 水内 郁夫
エネルギーシステム統合	准教授 池上 貴志 ^{※1}
データ駆動型予測制御	准教授 瀋 迅 ^{※1}
自然言語処理	准教授 古宮 嘉那子 ^{※1}
生態系型環境システム	教授 豊田 剛己
生物生産システム	教授 鈴木 丈 詞
資源生物創製科学	教授 梶田 真也
生物応答制御科学	教授 梅澤 泰史
地盤環境学	准教授 橋本 洋平
RNA 生物情報学	准教授 庄司 佳祐 ^{※1}
生体医用光学	教授 西舘 泉
バイオエレクトロニクス	講師 田畑 美幸 ^{※1}

出願資格（７）・（８）の認定について

出願資格の認定とは、本学府への出願資格の有無を判定するためのものであり、下記のとおり実施する。

1. 申請書類受付日時

受 付 日……「3. 選抜日程等」参照

受付時間…… 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分、13 時 30 分 ～ 16 時 ※土日・祝日は除く

受付場所……小金井キャンパス管理棟（1 階）小金井地区学生支援室入学試験係

なお、やむを得ず郵送する場合は、必ず封筒の表に「BASE 博士後期課程出願資格認定書類在中」と朱書きし、書留速達で送付すること。期日必着とする。

2. 提出書類等

ア) 出願資格認定申請書（所定用紙）

「志望する主指導予定教員」の欄は必ず記入すること。

なお、本要項（p.7～8）で※1 の教員の指導を希望する場合は事前に各教員と相談し、志望する主指導予定教員欄及び副指導予定教員欄を記入すること。

イ) 卒業証明書（出身大学等最終学校長が作成したもの）

ウ) 成績証明書（出身大学等最終学校長が作成し厳封したもの）

但し、卒業後 10 年以上を経過した者については、提出する必要はない。

エ) 一般選抜出願者は、p.3 に掲げる出願書類のうち G、K を、社会人特別選抜出願者は p.4 に掲げる出願書類のうち、E、F、H、L を提出すること。

3. 認定審査

本学府において、提出書類及び面接等により認定審査を行う。

4. 認定結果

出願資格審査結果通知日については「3. 選抜日程等」参照（郵送にて通知）

5. 出願手続

出願資格の認定を受けた者は、一般志願者と同様に
出願手続を行うこと

その際、既に提出済の出願書類の再提出は不要。

13. 所在地

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16

 042-388-7014

東京農工大学案内図

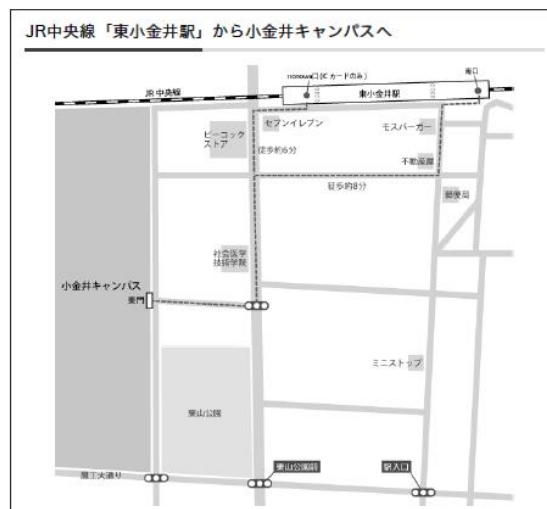


◎交通機関

小金井キャンパス

JR 中央線 東小金井駅（新宿から約 22 分、立川から約 12 分）

nonowa口から徒歩約6分、南口から徒歩約8分



2025 年 10 月入学（第 2 次募集） 東京農工大学大学院
生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻（博士後期課程）

入 学 志 願 票

選抜区分	一 般 選 抜 社会人特別選抜 (該当事項を○で囲むこと。)			受 験 番 号
				※
ふ り が な 氏 名		男・女	本籍 (又は国籍)	都・道・府・県 (外国人は国籍)
生 年 月 日	年 月 日 生 (歳)			
教育研究分野名		志 望 す る 主指導予定教員		
		志 望 す る 副指導予定教員		
出 身 大 学	大学 学部 学科 年 月 卒業			
	大学大学院 研究科 学部 (修士・博士前期) 年 月 修了・修了見込			
勤 務 先 及 び 職 業	会社名 役職名 〒 TEL			
現 住 所	〒 TEL E-mail			
合 格 通 知 等 受 取 場 所	〒 TEL			
履 歴 書				
学 歴 高等学校卒業から記入 して下さい。なお、大学 等で研究生として在学歴 がある場合は、その期間 も記入して下さい。	年 月	事 項		
職 歴				
備 考 資格、賞罰等がある場 合は記入して下さい。				

2025 年 10 月入学（第 2 次募集） 東京農工大学大学院 生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻 （博士後期課程）		2025 年 10 月入学（第 2 次募集） 東京農工大学大学院 生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻 （博士後期課程）	
写 真 票		受 験 票	
写真欄 写真は脱帽上半身 4cm × 3cm		受験番号	※
		主指導 予定教員	
		副指導 予定教員	
受験番号	※	ふりがな	
主指導 予定教員		氏 名	
副指導 予定教員			
		生 年 月 日	年 月 日生
ふりがな		（注 意） 1. 本票は、学力試験の際に机上に置いて監督者に見えるようにすること。 2. 本票は、入学手続まで大切に保管しておくこと。 3. ※印欄は記入しないこと。 4. 本要項（p.7）で※1の教員を志望する場合は、教員に相談の上、主指導予定教員及び副指導予定教員の記入を行うこと。	
氏 名			
生 年 月 日	年 月 日生		
注） 1 ※印欄は記入しないこと。 2 本要項（p.7）で※1の教員を志望する場合は、教員に相談の上、主指導予定教員及び副指導予定教員の記入を行うこと。			

必要事項を記入後、太線で切り取って提出すること。

2026 年 4 月入学 東京農工大学大学院
生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻（博士後期課程）

入 学 志 願 票

選抜区分	一 般 選 抜 社会人特別選抜 (該当事項を○で囲むこと。)			受 験 番 号
				※
ふ り が な 氏 名		男・女	本籍 (又は国籍)	都・道・府・県 (外国人は国籍)
生 年 月 日	年 月 日 生 (歳)			
教育研究分野名		志 望 す る 指 導 予 定 教 員		
		志 望 す る 副指 導 予 定 教 員		
出 身 大 学	大学 学部 学科 年 月 卒業			
	大学大学院 研究科 学部 (修士・博士前期) 年 月 修了・修了見込			
勤 務 先 及 び 職 業	会社名 役職名 〒 TEL			
現 住 所	〒 TEL E-mail			
合 格 通 知 等 受 取 場 所	〒 TEL			
履 歴 書				
学 歴 高等学校卒業から記入して下さい。なお、大学等で研究生として在学歴がある場合は、その期間も記入して下さい。	年 月	事 項		
職 歴				
備 考 資格、賞罰等がある場合は記入して下さい。				

2026 年 4 月入学 東京農工大学大学院 生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻 (博士後期課程)		2026 年 4 月入学 東京農工大学大学院 生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻 (博士後期課程)	
写 真 票		受 験 票	
写真欄 写真は脱帽上半身 4cm × 3cm		受験番号	※
		主指導予定 教員	
		副指導 予定教員	
受験番号	※	ふりがな	
主指導 予定教員		氏 名	
副指導 予定 教員			
		生 年 月 日	年 月 日生
ふりがな		(注 意) 1. 本票は、学力試験の際に机上に置いて監督者に見えるようにすること。 2. 本票は、入学手続まで大切に保管しておくこと。 3. ※印欄は記入しないこと。 4. 本要項 (p.7) で※1 の教員を志望する場合は、教員に相談の上、主指導予定教員及び副指導予定教員の記入を行うこと。	
氏 名			
生 年 月 日	年 月 日生		
注) 1 ※印欄は記入しないこと。 2 本要項 (p.7) で※1 の教員を志望する場合は、教員に相談の上、主指導予定教員及び副指導予定教員の記入を行うこと。			

必要事項を記入後、太線で切り取って提出すること。

修 士 論 文 の 概 要

受 験 番 号	※	教育研究 分 野		氏 名	
修 士 論 文 題 目					
修 士 論 文 の 概 要 (日本語 2000 字又は英語 500words 以内)					

注) 修士論文の内容を具体的かつ簡明に記入すること。なお、必要に応じては図、表、式を用いても良い。
※印は、記入しないこと。

研 究 業 績 一 覧

受 験 番 号	※	教育研究 分 野		氏 名	
学術論文、研究発表・報告、特許等の名称			発 行 又 は 発表の年月日	発 行 所、 発 表 雑 誌 又 は 発 表 学 会 等 の 名 称	備考（共著者名又は 共 同 発 表 者 名）

注) 年代順に記載のこと。また、学術論文等は、別刷又は写を添付すること。
※印は、記入しないこと。

研 究 計 画 書

受験 番号	※	教育研究 分野		氏 名	
研 究（ 希 望 ）題 目					
研 究（ 希 望 ）計 画 の 概 要 (日本語 2000 字又は英語 500words 以内)					

注) ※印は、記入しないこと。

受 験 番 号
※

志 望 理 由 書

東京農工大学大学院生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻（博士後期課程）の入学志望者、私は下記により志望します。

年 月 日

所属・職名等

氏 名

◎志望理由、過去の研究歴や職務内容と博士後期課程において希望する研究内容との関係等について日本語 2,000 字（英語 500words）以内で記入してください。

注) ※印は、記入しないこと。

東京農工大学大学院
生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻（博士後期課程）

入学試験出願資格認定申請書

ふりがな 氏 名	④	現 職	
生年月日 (年齢)	年 月 日 (歳)	現 住 所	〒 TEL — —
志望する 主指導予定教員		志望する 副指導予定教員	
学 歴			
年 月 日	事 項		
職 歴 (研究・開発等の業務内容を詳しく記入して下さい。)			
年 月 日	事 項		
学会及び社会における活動状況			
年 月 日	事 項		

入 学 承 諾 書

氏 名

このたび、上記の者が在職のまま貴大学大学院生物システム応用科学府
生物機能システム科学専攻（博士後期課程）に入学することを承諾しま
す。

年 月 日

東京農工大学大学院
生物システム応用科学府長 殿

住 所

所属機関

所 属 長

⑩

入学検定料納付確認票

受験番号	※
------	---

支払証明書またはレシートを貼りつけてください。

(注意)

納入された入学検定料は原則返還いたしません。

※欄は記入しないでください。

Department of Bio-Functions and Systems Science (Doctoral Course)

Contact Information Sticker

※印欄は記入しないでください。

Do Not fill in the section marked with a ✖

千 一 殿 (※)	千 一 殿 (※)	千 一 殿 (※)	千 一 殿 (※)
---	---	---	---